

## フィンランドの美術大学について

フィンランドの美術大学というと、デザインや美術教育学を学ぶ大学を思い浮かべるかもしれませんが、ここでは視覚芸術(ビジュアルアート)に関する大学を扱います。具体的にはファインアート(Fine Art)の範疇にある絵画、彫刻、版画、写真、ビデオアート等を学べる大学です。

フィンランド芸術家協会のホームページでは、フィンランドの大学レベルの美術教育について以下の記載があります。<https://www.artists.fi/fi/edunvalvonta/kuvataiteen-toimiala>

「フィンランドの視覚芸術教育はすべての教育レベルで提供されており、視覚芸術家は平均して高度な教育を受けています。ビジュアルアーティストの96%が、それぞれの分野で専門的な学位を取得しています。

大学レベルの教育は、ヘルシンキ芸術大学の美術アカデミー(Kuvataideakatemia)とアールト大学の美術学部(Vicca)によって提供されます。ラップランド大学の美術教育学部では、視覚芸術を副科目として学ぶことができますが、視覚芸術専門のプログラムはありません。

またトゥルク応用科学大学、ラボ応用科学大学、サタクンタ応用科学大学、ラップランド応用科学大学、ノビア応用科学大学で視覚芸術の学位を取得できます。」

## フィンランドの美術大学及び応用科学大学美術学部

### 美術大学

学士 (Kandidaatti) 2校 +1 (+1はラップランド大学の美術教育学部)

Kuvataideakatemia : <https://www.uniarts.fi/yksikot/kuvataideakatemia/>

Aalto yliopisto : <https://www.aalto.fi/en/department-of-art/visual-cultures-curating-and-contemporary-art-vicca>

Lapin yliopisto : <https://www.ulapland.fi/FI/Yksikot/Taiteiden-tiedekunta/Opinnot/Sivuaineet/Kuvataide>

修士 (Maisteri) 2校

Kuvataideakatemia : <https://www.uniarts.fi/koulutusohjelmat/kuvataide-maisteri/>

Aalto yliopisto : <http://vicca.fi/>

博士 2校 それぞれの大学のページで確認してください。

### 応用科学大学美術学部

学士 (Kuvataiteilija AMK) 5校

Turku : <https://www.turkuamk.fi/fi/tutkinnot-ja-opiskelu/tutkinnot/kuvataide/>

LAB : <https://lab.fi/fi/koulutus/kuvataiteilija-amk-kuvataide-paivatoteutus-lappeenranta-240-op>

Satakunta : <https://www.samk.fi/opiskelu/hae-opiskelijaksi/amk-tutkinto/kuvataide/>

Lapin : <https://www.lapinamk.fi/fi/Hakijalle/AMK-tutkinnot/Kuvataiteilija,-kuvataide>

Novia : <https://www.novia.fi/en/study/study/arts-and-humanities/bachelor-of-culture-and-arts-fine-arts/>

修士 (Kuvataiteilija Ylempi AMK) 3校

Turku : <https://www.turkuamk.fi/fi/tutkinnot-ja-opiskelu/tutkinnot/kulttuurialan-ylempi-amk-taiteen-uudet-kontekstit/>

LAB : <https://lab.fi/fi/koulutus/kuvataiteilija-ylempi-amk-kuvataide-lappeenranta-60-op>

Satakunta : [https://www.samk.fi/opiskelu/hae-opiskelijaksi/ylempi-amk-tutkinto-master/kuvataide\\_master/](https://www.samk.fi/opiskelu/hae-opiskelijaksi/ylempi-amk-tutkinto-master/kuvataide_master/)

美術大学は学士に入学し6年程度かけて修士課程修了をもって卒業となります。応用科学大学美術学部は4年程度かけて学士課程修了をもって卒業できます。応用科学大学学士課程の卒業者は美術大学の修士課程(2年程度)に進むことができますし、また応用科学大学の修士課程(1年半程度)に進むこともできます。ただ応用科学大学修士課程への進学には最低3年間の実務経験が必要になります。

博士課程はヘルシンキ芸術大学とアールト大学にあります。博士課程へは、美術大学及び応用科学大学の修士課程卒業者が進学することができます。博士課程への進学者は、通常十分な実務経験を積んだヴィジュアルアーティストが多いです。

## ラボ応用科学大学(旧サイマー応用科学大学)美術学部について

私が留学したのは、フィンランド南東部のサイマー湖畔の街イマトラにあるサイマー応用科学大学美術学部でした。個性を活かした美術教育を行っていて自由に学べました。反面、解剖デッサンなど厳しいクラスもいくつかありました。2021年に学校統廃合があり2023年現在はラボ応用科学大学の美術学部となっています。それに伴い校舎もイマトラから隣町の都市ラッペンランタに引っ越しました。美術学部は4年制で、卒業すると美術学士が取得できます。修士課程もあります。

2007年の秋、9月からサイマー応用科学大学の美術学部**学士課程**での留学生活が始まりました。留学当時ですが、最初の1年半は、実験的ドローイング、絵画、彫刻、版画、写真、解剖デッサン、ビデオアート、デジタルアート、公共アート(及び選択科目のジュエリーアート)を、一般科目としてクラスみんなで学びました。同級生は全部で40人弱で、入学から1年半は2つのクラス(1クラス20人弱)に分かれて学びました。1つの科目を4週間かけて、その科目のみを集中的に勉強するスタイルで、私にとってはとても新鮮でかつ、集中して美術の勉強ができました。また授業とは別に、毎週火曜日夕方に女性モデルのデッサン会が開かれていたのではほぼ毎回参加していました。

2年次の中間に、主専攻と副専攻を、絵画、彫刻、版画、その他のアート(写真・ビデオなど)、ジュエリーアートの中から選び、希望を提出し先生と話し合っ決めてます。私は主専攻が彫刻で、副専攻が版画でした。彫刻は、人体彫刻、粘土造形、石膏造形、セラミック彫刻、ブロンズ彫刻、金属彫刻、アルミ彫刻、公共アート2などを勉強しました。取りませんでした。他にも石彫刻、プラスチック彫刻のクラスもありました。副専攻では、木版画や複合版画のクラスを取りました。その他にもパフォーマンスアートのクラスを取りましたが、とても興味深かったです。これらも2~3週間、集中して学ぶクラスでした。(コミュニティアートのクラスも取りましたが、元々計画していた地域の高齢者施設での展覧会のプロジェクトで忙しくなり、プロジェクトに集中するため単位取得を諦めました。プロジェクトでの学びが大きかったので正解だったと思います。)

先生は、主にフィンランド人でしたが、アメリカ人(公共アート)の常勤の先生がおり、かつエストニア人(彫刻)とロシア人(解剖デッサン)の先生は毎年決まった時期にイマトラにやってきて学ぶようになっていました。サンクトペテルブルグ美術大学の教授によって行われる解剖デッサンの授業は学校の名物でした。他にも様々な国から先生がやって来て、スペイン、エストニア、ドイツ、フランス、ハンガリー他のヨーロッパ諸国などからの交換留学生たちも含めて学びました。授業の言語は基本的にはフィンランド語ですが、留学生が多い時や先生がフィンランド人以外の時は、英語になることもありました。ほとんどの先生やクラスメイトは英語が話せるので、わからないことがあれば英語で説明してくれます。

3年次以降卒業までに、美術に関する仕事(インターンなど)を体験するのが必須でした。私は某美術館併設のアーティストインレジデンスでの自分のプロジェクトを美術に関する仕事体験としてレポート提出及び報告をしました。また卒論は指導教授と話し合いながら、半年以上かけて英語で書き上げました。卒業制作と同時進行だったので大変でしたが、納得のいくものが書けたと思います。一方卒業展覧会はイマトラのイマトラ美術館で行われ、卒業作品の批評会はとても緊張しました。残念ながら評価はあまり芳しいものではなく、酷く打ちひしがれたのを覚えています。日本の大学時代に教養科目で取得したヨーロッパ文化や哲学等の単位が美術史や哲学の単位として認められたことやサマースクール、自身のアートプロジェクト等もあり、私は十分な単位を3年次初めまでに早めに取り終えていたので、卒業制作を1年早めてもらい、卒業は同級生より半年早い2010年12月になりました。

辛く大変なこともたくさんありましたが、学校は好きでした。何よりも作品制作に集中できる時間、空間、素材、技術的な支援があるのが人生で初めてだったので、とても幸せな時間だったのだと思います。また今でも続く友人や仲間たちに出会えたのは、嬉しく得難い経験でした。

### \*ラボ応用科学大学美術学部の変遷

イマトラ美術学校 → 南カレリアポリテクニク美術学部 → サイマー応用科学大学美術学部 → ラボ応用科学大学美術学部 (2023年現在)

<https://lab.fi/fi/koulutus/kuvataiteilija-amk-kuvataide-paivatoteutus-lappeenranta-240-op>

## ラボ応用科学大学(旧サイマー応用科学大学)美術学部の修士課程について

2015年の秋、9月からサイマー応用科学大学の美術学部修士課程での勉強が始まりました。修士課程の授業は毎月1週間、イマトラ、もしくは隣町ラッペーンランタの校舎で行われました。私自身は2012年からヘルシンキに住んでおり、2014年には個人のアート・デザイン会社 SÖPÖ をフィンランド・ヘルシンキで登録し運営し始めていたので、ヘルシンキから毎月一度イマトラに電車で行き、1週間滞在して授業を受けていました。

サイマー応用科学大学美術学部の修士課程の授業科目は、アート理論のみで、アート実技は自主制作に任されていました。具体的な科目は、現代美術理論、美術哲学、現代美術戦略論、ブランディング、マーケティング、公共アート理論、公共アート実践法、卒業展プロジェクト、論文研究調査手法論、卒論論文等です。授業は基本的にフィンランド語で行われました。私のフィンランド語は試験面接に受かる程度までに上達していましたが、読み書きはそれほど得意ではありませんでした。ただ幸い科目の中で最も重要な現代美術理論、美術哲学、現代美術戦略論のテキストは主に英語だったのでとても助かりました。予習をして授業に臨んだので、先生がフィンランド語で話す内容はほとんど理解できたと思います。

応用科学大学美術学部の修士課程は入学の条件として最低3年以上の実務経験が必要でしたので、様々な年代のビジュアルアーティストが同級生になりました。クラスメイトの構成は20代が2人、30代が2人、40代が3人、50代が2人、60代が2人。20代の2人は同じ時期にサイマー応用科学大学の美術学部学士課程に通っていた旧知の中だったので、わからないことを聞いたり、授業中に行われるグループワークで助けてもらったりしました。修士課程のクラスは11人と少人数で、指導がよく行き届いていたように感じます。授業は毎月1週間だったので、その1週間は学士時代に、イマトラの学生アパート(各々個室のある3人共用のアパート)と一緒に住んでいた友人の家に滞在しそこから学校に通いました。

毎回レポートやパワーポイントでの発表等の課題がとても多く、課題と予習をこなすのが大変でした。加えて個人会社の仕事もあったので、2015年秋から2016年春にかけて新しい作品は何も作れないほど忙しかったです。授業に関しては、現代美術理論、美術哲学、現代美術戦略論を受けもってくれた2人の先生がとても優秀で、1人は2023年現在フィンランドで最も規模の大きい美術館であるエスポー現代美術館のキュレーターとして働いており、もう1人は美術教師の傍ら、現代美術家としてヘルシンキ芸術大学彫刻学科教授の夫とのユニットで大きな彫刻作品の制作を続けています。とても学びが多く、特に現代美術についてテキスト及び授業から深く理論を学べる機会を得られ、とても良い経験でした。

実技に関しては、大学側は基本的にタッチしなかったのですが、卒業制作展が設定されており、ヘルシンキのケーブルファクトリーという大きな文化複合施設の展覧会場で行われる卒業展に向けて、個人指導教授を学科長と話し合いの上で選び、その方から数回に渡り実技指導を受けました。美術学部の公共アートの先生の指導も受けましたが、私はヘルシンキに住んでいたため、2008年に偶然会って以来アートコンセプトや作品から刺激を受けてきたヘルシンキ在住の芸術家カティア・トゥッキアイネンさんを卒業制作の指導教授に迎え、ヘルシンキ・ケーブルファクトリー内の自身のアトリエやケーブルファクトリーのカフェで2016年5月から10月まで計4回、指導を受けました。

卒業論文は2016年の1月から指導教授による理論や手法の授業が始まり、2月にテーマや主となるコンセプトをまとめて、3月ごろから具体的に書き始めました。7月に妻の両親の別荘へ向かう列車の中で卒論の最終章を書き上げたのを覚えています。8月に論文を提出し、9月に添削が数度あり、正式に完成しました。テーマは現代における公共アートについてでした。ちなみに論文は英語で書きました。(フィン語か英語を選択できます。)

また卒業制作は2016年5月からヘルシンキのアトリエで初めました。具体的には大きな木彫彫刻2つと、大きな木を利用したインスタレーションを1つ作りしました。6月から始まった夏休みの3ヶ月間に集中して制作をしました。卒業展が10月~11月にあり、その後2つの木彫彫刻は、2016年11月から12月にかけてエスポー市のギャラリーAARNIで行われた個展にも展示しました。個展終了後、大きな木彫彫刻の1つはエスポー市にある Sello 図書館に公共彫刻として設置され、現在まで市民に親しまれています。

2016年12月に美術学部の修士課程を修了し、美術学修士の学位を得ました。